

安楽寺だより

第 25 号

紙面内容

- 2面 「幸せは気づくことです」 坊守
- 3面 小学生と過ごす「夏のつどい」
- 4面 日本仏教史⑧ 江戸時代(上)

編集・発行 安楽寺住職 吉田 和良
 名古屋市瑞穂区井戸田町一の八〇
 電話 〇五二(八四一)二六〇六

御修復完了 11月本山報恩講厳修



本山御正忌報恩講

本年十一月に「真宗本願両堂等御修復完了奉告法要」続いて「御正忌報恩講」が、本山東本願寺に於いてお勤めされます。

十二年前の平成十六年(二〇〇三年)に東本願寺の御影堂・阿弥陀堂・御影堂門の御修復が、宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要の特別記念事業として始まりました。全国一千万人



本山御影堂門

と言われるご門徒の帰依処である真宗本願を、明治の再建より百十余年を経ての大規模な御修復でした。ご門徒の皆様にはご懇志の勧募を広くお願いして、多くのご懇念をいただきました。改めて厚くお礼申し上げます。

五年前の平成二十三年(二〇二一年)に勤まりました御遠忌法要には、安楽寺ご門徒六十余人の皆様と参拝致しました。法要直前の三月十一日の発生した東日本

大震災と福島原発事故により命を亡くされた方々への追悼と被災された数十万人の皆様への支援を法要に参拝された全国の皆様と確認させていただきました。

この度、今年二月の御影堂門の修復終了により、十二年に及ぶ修復事業が完了致しました。

東本願寺は江戸時代中期の「天明の大火」による焼失をはじめ四度の火災に遭遇し、その度に再建され、明治二十八年(一八九五年)に現在の御影堂・阿弥陀堂が落成されました。その歴史を振り返る時、先人の念仏相続の想い・願いが脈々と受け継がれてきた事実、そして私たちが真宗門徒して親鸞聖人が頭かにされた仏さまの道を歩むこと深く願われていると領かされます。また、私たちが後の世代の子孫に聖人のみ教えを誤りなく伝えてゆくべき責務を担っている強く感じます。

今年も本山報恩講(団体参拝は十一月二十五日)のご参拝を心より願っております。

「幸せに気づくヒント、そして感謝するヒント」

坊守 吉田滋代

八月二十八日、安楽寺会館で開催された西田葬儀社のイベントで、法話をさせて頂きました。

私たちは日々、物を頂いたり恩を受けた時「ありがとう」と言っています。でも、そこにあるのが当り前とされていることにありがとうと言っているでしょうか？例えば右手が痛い、左ひざが痛い、痛いことはよく言っています、痛くない左手、痛くない右足にありがとうといっているでしょうか？



安楽寺会館での法話

心臓は一日十萬回も黙ってずっと動いていてくれます。それは決して当り前のことではないのです。人と人とはどうでしょうか？嫌いな人は目について「あいつさえ居なきゃー」なんて思ったことはないでしょうか。大切な人がそばにいないと気づいているでしょうか。

おひとり住まいの方で「淋しいから早くお迎え来ないかしら」と愚痴られる方がよくいらっしやいます。でもどうですか、帰ってホッとする家がある、疲れた体を受けとめてくれるお布団がある、虐待されている子供は帰るのが怖いんです。気がつけば、すぐそこに幸せがいっぱいあるのに不満ばかりに気を取られ、人生を送っているのではないのでしょうか。

幸せは気づくことです。当り前が当り前でない気づいて「感謝」することです。

偉そうにお話ししている自分自身も、いつも忘れてしまつて、忙しさに紛れ生きています。そんな拙い私が人の前でお話しさせて頂けるのも決して当り前でないと気づかされる尊い一日でした。沢山の方にいらしていただき本当にありがとうございます。



永代供養墓での彼岸法要

九月二十日、八事霊園墓地で秋のお彼岸法要をお勤めいたしました。どんよりした空模様でしたが、大勢の皆様にご参詣をいただきました。

永代供養墓でお勤めを始める頃には、雨が降り出しました。ご参詣の皆様には、足元に注意しながらお焼香をしていただき、それぞれが亡きご家族へ想いをはせておられました。

日頃、永代供養墓にかけた折に、お花が新しくなっていることが多いと感じております。ご参詣の皆様にご感謝申し上げます。

小学生と過ごす「夏のつどい」若院



東別院対面所での先生のお話

八月二十三日から二十五日まで東別院児童教化連盟が毎年開催しています『夏のつどい』に参加させていただきました。

今年は東別院で厳修された宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌の年ということもあり、二泊三日東別院境内で小学生の子供たち約四十人と過ごさせていただきました。今回は「子どもも大人もほとけの子」そのままの自分って何だろう」というテーマで、子供たちと色々と考えながら共に過ごしました。朝はラジオ体操から始まり、流しそめんや水遊び、そして夜には別院の境内を

探索するナイトツアーもあり、充実した三日間を楽しんで過ごしました。

特に澤面(さわも)先生による、テーマに沿ったお話は物凄く考えさせられました。「大人になればなるほど、社会に合わせることを一番に考えて、自分を隠しながら生

きている自分がいること。無数の愛情があつて今、自分のいのちがここにあるということの尊さ」先生のお話をお聞きして、改めて自分を見つめ直すきっかけをいただいたような気がします。

また来年、再来年もこの先ずっと『夏のつどい』で色々なご縁をいただける自分に感謝をして、いつまでも子供たちの笑顔の絶えない世の中を願っています。

不戦の思いを新たに

「戦争に関する資料館」見学

中区の愛知県庁から五分ほど南へ歩くと昨年七月に開館した「愛知・名古屋 戦争に関する資料館」があります。第二次大戦が遂行される中、当時の県民がどのような生活を強いられたかが紹介されています。写真やパネル・展示物、映像などで悲惨な日々を送られた人々の姿を克明に知ることができます。

先日、資料館を見学して、戦争とは、戦地で交戦を強制された人々の人生だけではなく、県民・市民すべての人々の平和な生活が奪われる誤った行為であり、絶対に戦争を行なってはならないと強く感じました。



戦後に生まれた私たちは、戦争に至った当時の状況を知り、最新の戦争に繋がる世の中の動きをしっかりと見定め、不戦の誓いと行動が大切だと思えました。ご門徒の皆様も、ぜひ一度資料館を見学いただければとご案内申し上げます。

(住職記)

開館時間は、月曜日・火曜日を除く毎日一〇時～十六時。中区大津通沿い西側、レンガ造り三階建て。愛知県庁大津橋分室の中にあります。

仏教豆知識

第二十五回



日本の仏教

歴史 その⑧

江戸時代(上)

江戸時代に入ると、徳川幕府と各大名が治める藩との権力統治機構が、整えられていきました。仏教勢力に対しても、法度(はつと)＝法令を下して細部にわたる統制が加えられ、寺院を支配体制に組み入れました。

ひとつは、「本末制度」で、一六三三年(寛永九年)徳川幕府は仏教勢力の本寺に本末帳の作成を命じ、一六六五年(寛文五年)に「諸宗寺院法度」を発し、本寺の寺院統制権を保護して、その制度の実をあげようとした。

本寺・末寺という上下関係は確立され、本寺が末寺へ寺号・木仏・絵像・寺格の下付や末寺が種々の願事・取次の礼金を

本寺へ納めること、また、末寺に対して本寺への出仕や灯明料などの取持(負担)義務を負わせました。こうして本山(本寺)を頂点とした教団を縦に貫く寺院組織が成立し、教団の秩序維持が有効に機能していきました。



徳川家康

代	氏名	在職年代	襲職年齢	期間(年・月)	享年
1	徳川家康	1603(慶長 8) ~ 1605(慶長10)	62	2・2	75
2	徳川秀忠	1605(慶長10) ~ 1623(元和 9)	27	18・3	54
3	徳川家光	1623(元和 9) ~ 1651(慶安 4)	20	27・9	48
4	徳川家綱	1651(慶安 4) ~ 1680(延宝 8)	11	28・9	40
5	徳川綱吉	1680(延宝 8) ~ 1709(宝永 6)	35	28・5	64
6	徳川家宣	1709(宝永 6) ~ 1712(正徳 2)	47	3・5	50
7	徳川家継	1713(正徳 3) ~ 1716(享保 1)	5	3	8
8	徳川吉宗	1716(享保 1) ~ 1745(延享 2)	33	29・1	68
9	徳川家重	1745(延享 2) ~ 1760(宝暦10)	35	14・6	51
10	徳川家治	1760(宝暦10) ~ 1786(天明 6)	24	26	50
11	徳川家斉	1787(天明 7) ~ 1837(天保 8)	15	50	69
12	徳川家慶	1837(天保 8) ~ 1853(嘉永 6)	45	15・9	61
13	徳川家定	1853(嘉永 6) ~ 1858(安政 5)	30	4・9	35
14	徳川家茂	1858(安政 5) ~ 1866(慶応 2)	13	7・8	21
15	徳川慶喜	1866(慶応 2) ~ 1867(慶応 3)	30	1	77

親鸞聖人の御命日法要(報恩講)の時節になりました。報恩講をお勤めし、聖人のみ教えをいただいて、私の生き方を見つめ直す大切な機会とすることが願われていきます。▼ご自身の九十年の生涯を「罪悪深重、煩惱熾盛」と申された聖人。「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」と、凡夫としての自覚を持って生き抜かれました。▼私は、自分自身の在りように一喜一憂したり、周囲の状況や社会の動きに振り回されて生きています。そんな私に「迷いの身」と自覚し、「生死流転の道を出なさい」と、聖人は示してくださっています。

▼「迷いの真っ只中において念仏をもうせ」との聖人の呼びかけの声を聴き、うなづくことから、真宗門徒の生活が始まっていくのではないのでしょうか。